教育目標　すくすく　ぐんぐん　にこにこ

令和４年１１月３０日
第５３６号
北区立じゅうじょうなかはら幼稚園

園長　髙沢　ゆみか

わらべうた遊び

１１月のふれあいデーでは、親子で製作活動を楽しんだり、ミニ音楽会での歌や合奏を保護者の皆様にご覧いただいたりしました。短い時間ではありましたが、お子さんの成長を感じ取っていただくことができたのではないかと思っています。後日いただいたご感想の中にも、「クラス全体が歌うこと、演奏することを楽しんでいるなと見ていて感じました」「自信が感じられて、この１年でとても成長したなと感じました」など、うれしいお声をたくさんいただきました。ご多用の中ご参観いただき、ありがとうございました。

今回のミニ音楽会の中で、年長さくら組は、学級で楽しんでいるわらべうた遊び『あんたがたどこさ』『でんでらりゅうば』を披露しました。本園では、今年度の園内研究のテーマとして、わらべうた遊びを糸口に、子どもたちが多様性を受け入れ合い、自他ともに尊重する心を育む保育を目指しています。ご存知の通り、わらべうたは、優しいメロディーと美しい言葉やユニークなその土地ならではの言葉で紡がれており、誰でもすぐに口ずさむことができ、ゆったりとした歌に合わせて体も比較的容易に動かすことができます。踊ったり歌ったりすることに苦手意識がある子も、わらべうた遊びは参加しやすく、活動を通して音楽に親しんだり、友達と触れ合うことを楽しんだりする姿が多く見られています。年少ちゅうりっぷ組の子どもたちも、優しいメロディーに合わせた手遊びや、『かごめ かごめ』などが大好きで、学級の友達と触れ合ったり、互いの声を聴き分けたり、役割を交代したりすることなどを繰り返し楽しんでいます。自分なりの楽しみ方でわらべうた遊びを楽しみ、相手や友達がいるうれしさを味わいながら、自分と他者との違いに気付き、受け入れ、「みんなちがって みんないい」という“こころもち”を育んでいきたいと思います。

本園の子どもたちにわらべ歌遊びを教えてくださっている、わらべうた実践家で元東京家政大学進路アドバイザーの久津摩 英子先生によると、わらべうた遊びにはセラピー（癒やし）効果があるそうです。シンプルで優しいメロディーを口ずさみながら、親子で、あるいは友達と肌を触れ合わせているうちに、穏やかでゆったりとした気持ちになったご経験がある方も多いことと思います。

早いもので、今年も残すところあと１か月となりました。何かと気忙しくなるこの時期、ご家庭でもお風呂の時間や寝る前のひとときなどに、簡単なわらべうた遊びを楽しんでみてはいかがでしょうか。これから寒さも本番を迎えます。この一年の皆様からのご支援、ご協力に深く感謝申し上げますとともに、保護者、地域の皆様おかれましても、お体に気を付けてよいお年をお迎えください。

今月の指導のねらい

＜ちゅうりっぷ組＞

- 自分の思いを言葉や動きで表しながら、それを実現することや、繰り返し取り組むことを楽しむ。
- 学級のみんなでする活動を楽しみにし、自分から取り組もうとする。

＜さくら組＞

- 自分なりの目的をもち、遊びや活動に取り組み、達成した喜びを味わったり、自分の成長に気付いたりする。
- 学級やグループの課題を自分なりに受け止め、考えたり協力したりしながら、友達と一緒にやり遂げようとする。